令和6年稲沢市教育委員会 第10回定例会会議録

1 日 時 令和6年10月11日（金）午後1時30分～午後3時3分

2 場 所 議員総会室

3 出席委員 教育長 広沢 憲治
教育長職務代理者 伊藤 浩樹
委員 吉川 繁樹
委員 澤田 可奈子
委員 大島 宏之
委員 森 誠子

4 説明のため出席した職員

教育部長	荻須 正偉		
教育部調整監	森 義孝		
教育部次長兼庶務課長	大口 伸	庶務課主幹	大崎 敬介
学校教育課長兼指導主事	松村 覚司	学校教育課統括主幹兼指導主事	伊藤 尚
学校教育課主幹兼指導主事	林 久人		
生涯学習課長	別府 正弘	生涯学習課主幹	松尾 俊明
生涯学習課主幹	恒川 浩		
スポーツ課長	江頭 弘幸	スポーツ課主幹	鈴木 元行
図書館長	塚本 ゆかり	図書館主幹	石川 路子
美術館長	長谷川 隆		
書記 庶務課	犬飼 貴志	青木 洋人	

5 教育長報告

6 前回会議録の承認

令和6年第9回定例会会議録 承認

7 教育委員会報告

8 9月定例会一般質問の内容について

9 議事

- ・令和7年度人事異動方針（案）について

10 報告

- ・稲沢市教育委員会後援名義使用承認について

11 その他

- ・第61回稲沢市民展について

12 次回開催予定日時

－ 開 会 －

◎教育長

それでは、令和6年第10回教育委員会定例会を開会します。

◎教育長

初めに、教育長報告ということで私からお話をさせていただきます。

10月になりまして、朝晩と言いますか、まだ朝だけですかね、涼しいなとか、寒いなというふうに変わってきました。今年は本当に暑かったわけですが、ちゃんと季節が進んでいるなど感じています。この10月から学校訪問が始まっています。まだ始まったばかりで、2日間で4校、私、後期の学校訪問に出かけてきました。それぞれの学校、落ち着いた雰囲気の中で教育活動が行われておりまして、うれしく思ったという表現は違うかも知れませんが、何かほっとしたと申しますか、そんな感じを受けて帰ってまいりました。ただ、じゃあ何も課題がなくて完璧に進んでいるかということ、そういう訳でもなくて、校長先生や教頭先生などと訪問の中でお話をして、そんな中で思ったこと、考えたことを少しお伝えしておこうかなと考えています。

今の子どもたち、本当にいろいろな課題がありまして、こんな話をし出すとどんどん広がって行って、時間がいっぱい掛かってしまいますが、今回学校訪問の中で感じたという部分については、一つはやはりコミュニケーション能力の育成ということが、今の子どもたちにとって大変大きな課題ではないかな、

そんなことを思いました。表現力と申しますか、自分の想いを自分の言葉で相手に伝えるということは、非常に大切なことである訳ですが、まだコロナ過の影響を引きずっているところもありますが、ややそういう辺り弱い面がありはしないかなと、そんなことがまた別のほうにも影響していつてしまっているのではないかな。あまり断定はできませんが、例えば今不登校の児童・生徒が多くてという話を時々させていただきますが、その辺りもコミュニケーション能力が何か関係しているのではないかな、そんなふうに私は個人的に考えております。それからもう一つ、これは、私が見て感じたというよりは、各学校の課題意識というのでしょうか、そんな中に自ら学ぶ意欲を育てるといような部分。これは指導要領の中で、いろいろな形で、自ら学んでいくんだということは出てきているわけですが、なかなかこれが簡単に育てていくことが出来ない部分であったなと思います。例えば、社会科で今日の課題はこれだよと子どもたちに話をするわけですが、それに対して子どもたち自身が、こういうことをもっと調べたい、こういうことをもっと勉強したいという形で学習がスタートしていく。ある意味、理想ではある訳ですが、目指すべきはそんな姿ではないかな、この自ら学ぶという部分に感じました。その辺りを各学校、いろいろな形で取り組んでいます。少し余談になってしまう部分ではありますが、それをさらに突き詰めていったところにある、どういう表現をすれば皆さんに分かっていただけるのか分かりませんが、自由進度学習という表現を使っています。一人一人が自分で学習の計画を立て、どんな順番でどんなスピードでやっていくかを、一人一人が考えて、そして取り組んでいくという。こういう実践もある学校で、駆け足で回っていますので、十分に見て来たとは言えないのですが、そういう授業も私個人としては初めてその現場を見たと言いますか、いろいろ資料の中ではこれまでも接しておりましたが、実際に授業でそういう方法でやっているのは初めて拝見しました。こういう形で今いろいろなことを、学校で努力しているということです。なかなか、この課題にどう対応するかというのは、簡単に答えが出るなら誰も困りはしないわけですが、今回の学校訪問4校の中では、協働的な学習という表現を指導要領の中ではしますが、仲間と自分の学んだことを交換し合い、伝達している。自分はこう考える、それに対してほかの子は、そうじゃなくてこうじゃないかな。そんなふうに協働で学習して、自分の思いとの違いを感じ、それで次のステップへと進んで行く。これをやはり考えて行かなければいけないのではないかな。これを行うことで、先ほどコミュニケーション能力と申しましたが、当然自分のやったことを言語化する、言葉を使って発表するわけですので、そういったことも併せて育成ができていくのでは

ないか。まだまだ、4校だけということですので、この後の学校訪問で別の課題も見えてくるかも知れませんが、当面そんなふうに4校で感じてまいりましたので、お伝えさせていただきました。これらの内容は、少し何かやったら、すぐ目に見えて成果が出てくるという性質のものではないと思いますので、地道な長い期間の取り組みが必要であります。学校はそういうことでやっていく所だと私は思っていますので、そういうふうにこれからも見ていきたいと思っています。

教育委員の皆様にも、11月には学校訪問で実際に学校へ出かけていただく機会を作っています。その時に学校の様子を見ていただけたらありがたいと思います。どうかよろしくお願ひします。

本日の、私からの報告は以上とさせていただきます。

◎教育長

それでは、3. 前回会議録の承認について、前回会議録を順次お返ししますので、お目通しをいただき、署名をお願いいたします。

◎教育長

次に、4. 教育委員会報告について、教育部長お願ひします。

●教育部長

先月の定例教育委員会から今日まで、教育委員会に関わる主な行事等について報告させていただきます。

まず、9月30日の月曜日、この日、新しい議長に吉川隆之議員、副議長に服部礼美香議員が選任されました。また文教厚生委員会では、岡野次男委員長、鵜野大助副委員長が委員互選により選任されました。また、教育委員会委員に大島宏之委員の任命が同意されました。

また同日、稲沢市教育研究会研究集会を開催しました。市内小中学校の教職員は、教科等を中心とする全部で24ある部会のいずれかに所属し、教科等を中心とする研究課題について、日頃から実践・研究を行っています。研究集会では、部会ごとに市内小中学校に分かれ、各自が持ち寄った実践レポートの報告を行いました。なお、大学教授などの専門家を招き、実践内容についての指導・助言を受けた部会もあったと聞いております。

次に、10月1日の火曜日、人事異動があり、教育委員会内では野々部隆明主幹と坂部翔吾主事の異動がありました。また、新規採用として学校教育課に白木宏徳君が配属されました。

また同日、バレーボールの2024-25S Vリーグ開幕に伴い、ウルフドッグス名古屋からシニアゼネラルマネージャーの横井俊広様、山田脩造選手と深津英臣

選手が開幕に向けての決意表明のため市長表敬訪問がありました。

また、10月1日から稲沢市民展を美術館で開催し、6日までの期間は、日本画・洋画・写真の分野で構成する第1部で80点の作品が出品されました。8日からは、書・工芸美術の分野で構成する第2部が始まっており、71点の作品が出品されています。

次に、10月2日の水曜日、大里西小学校4年生の窪田あこさんが第28回全日本フィギュアスケートノービス選手権大会への出場が決まり、全国大会出場への意気込みを伝えるため、市長表敬訪問がありました。

次に、10月8日の火曜日、市長とPTA代表との教育懇談会が開催されました。今年度は、教育環境の充実、指導体制の充実、児童生徒の安心安全に関することについて各学校のPTA代表の方から要望が出され、市から回答を行いました。

以上で、教育委員会報告とさせていただきます。

◎教育長

教育委員会報告で何かご質問等、お聞きになりたいことがありましたらどうぞお願いします。

○伊藤委員

10月8日の市長さんとPTA代表の教育懇談会について、もう少し詳しく教えていただけませんか。

●生涯学習課主幹

毎年、PTAの主催で、各学校のPTA会長が、事前に市に提案された質問、要望に対し、市長出席のもと、市側からお答えするという形式で進めております。今回、この会において出されましたご質問、ご要望等についてかいつまんで説明させていただきます。特別教室等へのエアコン設置や体育館の空調整備に関する事、運動場のグリーンサンド化、そして部活動の地域移行について、ICT支援員の拡充、それから登下校の安全確保について、こういった案件について、PTA会長やPTA代表が質問され、それに対してお答えしたということです。

○吉川委員

今の市長さんとPTA代表との会で、まず全ての学校でPTA会長が出席されたか教えてください。

●生涯学習課主幹

欠席の学校も2校ありました。それから、会長の都合が悪くて、代理の方が出席された学校もございます。

○吉川委員

今、いろいろな質問が出されたということですが、今一番話題になっているのが学校の再編問題、こういう問題についてはP T Aの方から質問はなかったでしょうか。

●生涯学習課主幹

各校からの質問や要望は1つずつで、学校側の事務局校により集約していただいております。この中には、学校の再編に関する質問や要望はありませんでした。

○吉川委員

これだけ今、学校施設整備基本計画が出されて、一つも話題が出なかったというのは私も驚いています。やはり、P T Aの代表の方ですから、それぞれの学校で挙がったことを市長さんにお伝えして、ご回答いただくという形があってもしかりだなとそんなふうに思いましたので、質問させていただきました。

◎教育長

ほかにございますか。

◎教育長

ないようですので、次に、5. 9月定例会一般質問の内容について、教育部長お願いします。

●教育部長

さる9月9日から9月30日まで22日間の会期で9月市議会定例会が開催されました。その中で教育委員会に関わる内容で主なものについて報告させていただきます。

議案等に関するものについては、条例関係議案として「稲沢市立学校給食調理場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」の1件がありました。また、予算関係議案として「令和6年度稲沢市一般会計補正予算（第3号）」がありました。いずれも原案どおり議決をいただきました。

次に、一般質問者は13人で、その内、教育委員会に関わる内容について質問されたのは7人でした。質問・答弁の主なものを報告させていただきます。

最初に、9月12日の4番目の質問者、鈴木純子議員からは、稲沢市内の3つの図書館の自習室の席数と利用状況についての質問がありました。

教育部長から、稲沢市図書館3館のうち、自習利用の学習室を設置しているのは祖父江の森図書館で、現在の席数は46席である。利用状況については、テスト期間は満席になるが、土曜・日曜は若干の余裕があり、平日は10人程度の利用にとどまっている。中央図書館には学習室はないが、グループ学習室を一

般に開放している。座席数は26席で、テスト期間中は、常時ほぼ満席に近い利用があるが、それ以外の期間は、比較的余裕がある状況となっている。なお、平和町図書館には、現在学習室の設置はない旨を答弁しました。

次に、9月13日の1番目の質問者、平野泰弘議員からは、地域スポーツ活動には、多様な子どもたちが集まることが想定され、そこではインクルーシブな視点に立った運動やスポーツ指導が必要になると考えられるが、稲沢市ではどのように部活動の地域移行を進めていくのかについての質問がありました。

教育部長から、稲沢市においては、令和5年7月に有識者、スポーツ団体関係者、文化団体関係者、PTA役員、中学校校長、教諭からなる「稲沢市部活動地域移行検討委員会」を立ち上げ、「稲沢市部活動地域移行だより」の発行、児童生徒、保護者、教員へのアンケート調査を実施し、検討委員会において休日の部活動の地域移行に向けて協議を重ねている。実施に向けては、指導者や活動場所の確保、平日の学校部活動と休日部活動の連携、大会への参加や大会の運営、活動場所への移動方法や活動費用の保護者負担、活動中のけがやトラブルの対応など多くの課題がある。これら以外にも障害の有無や年齢などにかかわらず、全ての人を楽しめる「インクルーシブな視点」、性別にかかわらず、平等にさまざまなことを考え実行する「ジェンダー平等の視点」、障害のある方に合わせたルールや用具を工夫することでその人に適したスポーツを展開する「アダプテッド・スポーツ」の考え方、多様なルーツをもつ子どもへの配慮の必要性として国籍や文化などを理由としたスポーツ機会の損失が起こらないような環境整備など、様々な視点や考え方から見た配慮が必要になってくるが、それらの実現のためには、行政だけでなく専門的な運営団体・競技スポーツの協会、連盟など実施主体と連携していくことが必要になる。まずは休日部活動の地域移行の実施に向けて検討委員会で協議を続けていきたいと考えている。その後、具体的な方針が決定次第、様々な視点に配慮して進めていく旨を答弁しました。

次に、9月13日の2番目の質問者、小柳彩子議員からは、稲沢市学校施設整備基本計画は、計画案が承認された後は地域で協議会を立ち上げ、より具体的な協議を進めていくとのことだが、協議を進めた結果、計画が変更になる可能性はあるのかについての質問がありました。

教育部長から、稲沢市学校施設整備基本計画は、学校施設の老朽化や少子化が急速に進む中で、建替えを機に学校規模の標準化を図り、文部科学省が提唱する新しい時代の学びにも対応した学校施設を整備することが目的であり、学校再編・統合は目的を達成するための手段の一つである。教育委員会では今後、

学校再編・統合の第1期対象地区を対象として、小学校区ごとに地区説明会を開催していく方針となっているが、学校再編・統合は地域の理解と納得がなければ進めることはできないと考えている。教育委員会としては、対象地区に丁寧の説明し、地区説明会を重ねていく中で、学校再編・統合について一定の理解が得られた地区については、(仮称)地域協議会を立ち上げ、地域との合意形成に向けてスケジュールや学校の位置、通学支援の方法、跡地利用など具体的な内容について協議していく。その際に、計画で示しているスケジュールや整備方針どおりに進まないことも考えられるが、学校再編・統合は地域の理解と納得がなければ進めることはできないので、計画の変更については柔軟に対応し、時間がかかっても丁寧に進めていくと考えている旨を答弁しました。

次に、9月13日の5番目の質問者、北村太郎議員からは、稲沢市では、不登校対策をより充実させ、多様な教育機会を確保するため、今後どのように取り組んでいくのかについての質問がありました。

教育長から、誰一人取り残されない学びの保障に向けて、本市においては、これまで同様に、まずは不登校の未然防止に向けて魅力ある学校づくりを推進し、誰もが安心して生活し自分の力を発揮できる学校・学級づくりに努めていきたいと考えている。それとともに、不登校になった児童生徒が、学びたいと思った時に学ぶことができる体制づくりを進めることも重要視している。不登校児童生徒への支援については、再び学校に登校することだけを目指すのではなく、児童生徒が主体的に進路を考え、社会的に自立することが大切であると考える。そのために、日頃から相談活動を通して児童生徒や家庭の状況を的確に把握し、一人一人に応じた学びの場を可能な限り保障していきたいと考えている。現在は、適応支援教室「明日花」、「明日花東分室」や学校内の別室での対応、心の教室相談員の配置、オンライン授業やオンライン学習教材の充実、フリースクールとの連携などによって、学びの場を保障している。教育委員会としては、不登校児童生徒の学びの場の保障を進めるために、不登校児童生徒に関する相談がしやすい教育支援体制づくりや各中学校にある別室指導の充実を図っていきたいと考えている旨を答弁しました。

次に、9月17日の2番目の質問者、曾我部博隆議員からは、保育園、小学校を削減すれば、少子化が加速するのではないかについての質問がありました。

教育部長から、少子化は社会や経済情勢の変化、結婚や出産、子育てに対する価値観の変化など、様々な要因によるものであり、小学校の統廃合が直接少子化につながることはないと考えている。教育委員会としては、学校再編・統合により、子ども達にとってより良い教育環境を整備、充実させることで、子

育て世代を中心にした転入増加によるまちの活性化、ひいては、人が人を呼ぶ好循環につなげてまいりたいと考えている旨を答弁しました。

次に、9月17日の3番目の質問者、岡野次男議員からは、生涯学習課が取り組んでいるスマホ教室について、昨年度の実績及び今年度の計画についての質問がありました。

教育部長から、生涯学習課では、毎年、市内在住在勤の60歳以上の方を対象に、市内4会場にて、全6回の寿教室を開催している。その中の1回に、稲沢市DX推進計画を基に、スマホの使い方等を学べるような講座を設けている。昨年度は、「スマホを安心して使うには」をテーマに開催したところ、4会場合計で97名が受講されました。今年度も一部会場を変えて、「スマートフォンで、旅行をもっと楽しく快適に」をテーマとして、10月30日から4会場にて開催する予定となっている旨を答弁しました。

最後に、9月17日の4番目の質問者、平野賀洋子議員からは、市営プールに関して、過去に5か所から3か所に減らしてきた経緯がある。設備の老朽化等の問題もあるかと思うが、今後の市の方針についての質問がありました。

教育部長から、これまで井之口プール及び明治プールは、老朽化が著しいことから廃止してきた経緯があり、現在の市営の屋外プール3施設すべてにおいても、老朽化が進行し修繕費、維持管理費が増加している。また、プール利用者の減少、委託業者による監視員の確保、利用者だけでなく監視員を含めた猛暑による熱中症のリスクなど様々な問題を抱えており、今後、屋外プールの継続的な使用ができなくなる恐れがある。今後の市営の屋外プール、学校開放プールも含め、その在り方について施設の廃止、再編等を検討していく旨を答弁しました。

以上で、令和6年9月定例市議会で審議されました教育委員会に関わる主な内容の報告とさせていただきます。

◎教育長

一般質問の内容について何かご質問等、お聞きになりたいことがありましたらどうぞお願いします。

○大島委員

熱中症対策、それからクーリングシェルターということについて出ていますが、具体的に小中学校、特に中学校での夏休み中の運動部の部活動などで、熱中症対策、特にこういうことをやられているということがあれば、具体的に教えていただきたいのと、それからクーリングシェルターについてという項目が出ていたのですが、具体的な説明がなかったので、利用状況を教えていただき

たい。

●学校教育課統括主幹

部活動の熱中症対策につきましては、暑さ指数を確認し、無理のない範囲で活動を行っています。また、各学校、活動時間帯と場所の工夫をしています。気温が高くなる時間帯を避けるとともに、例えば、条件が整い、空調設備が整った市の施設を活用した学校もあります。

●教育部長

クーリングシェルターにつきましては、環境保全課から市内の施設でエアコンが使える施設をいくつか指定しまして、スポーツ課の教育施設もいくつかございます。図書館、美術館もそうですね。あと、体育施設で、祖父江の森や祖父江町体育館が入っています。夏場の暑いときにそちらが指定されていますので、市民の方に自由に入っていただくという感じで実施しています。特に利用状況について把握はしておりませんが、そんな状況です。

○大島委員

もう1点、夏休み等の運動部の部活動中の熱中症も含めた指導体制というか監視体制はどのようにされているのでしょうか。

●学校教育課統括主幹

基本的に中学校の部活動は、2名体制になります。子どもだけで部活動を実施することはなく、複数の目で様子を確認しながら部活動を行っています。

○澤田委員

同じく熱中症対策のところで、自動販売機の設置、活用と書いてあります。今、お子様の中で、対策グッズで冷凍庫が必要になるものを皆さんお持ちですが、冷凍庫の設置をお考えかどうか教えてください。

●教育部長

自動販売機の設置につきましては、岡野議員の質問で、これは公民館への設置についての質問だったと思います。今の、クーリングシェルターに指定されていて、公民館によっては自動販売機のある所とない所がある。その指摘を受けて質問があった訳ですが。自動販売機の設置は、現在入札で行ってしまして、業者によって販売の可能性が少ない所はなかなか入札に応じていただけないものですから、公民館の中でも利用者が多い所は業者が入っていただけるのですが、少ない所は置いていただけないというのが実情です。これについては、岡野議員から質問がありまして、今後どうするのかということがありましたが、市民の方から聞かれたら近くの自動販売機を案内させていただくということでお答えさせていただきました。

◎教育長

もう一つ、質問がありましたね。

○澤田委員

対策グッズを冷やすための冷凍庫を学校内に設置することについては、いかがでしょうか。

●学校教育課長

冷凍庫の設置につきましては、昨年度に検討させていただいたことがありますが、どこに置くかということ、冷凍庫を買う予算的なこと、冷凍庫への出し入れなどの時間的なこと、そういったことを考えて設置は難しいということを、以前に検討させていただいたことはあります。

○澤田委員

グッズも流行りすたりがありますので、何とも言えないのは確かなのですが、今水で冷やすものより、冷凍庫で冷やすものが主流になってきていて、帰りこそ暑さが大変な中、子どもたちが歩いて帰って来るときに冷えたものがないと、とても心配なのでもう一度検討していただけるとありがたいです。

◎教育長

ほかにございますか。

○吉川委員

2点お願いします。まず、平野議員の質問に対して、運動部活動の地域クラブ活動への移行についてということで、再来年度ですから令和8年度に完全に移行するという話が出ていたかと思いますが、これは現場の先生方や我々の方には、今どういう状況なのだろうということがなかなか伝わってこない。市のホームページに教育委員会からというページがありますね。そういうページの中では啓発されているのか、どんな話し合いがなされて、どこまで今進んでいるのかということは掲載してみえるのかということ、一つお願いします。

●学校教育課長

啓発につきましては、市のホームページに部活動地域移行検討委員会の議事録について簡単な形ですが記録を掲載していること。それから部活動地域移行だよりを作っていますので、そのたよりを学校そして保護者に配布をさせていただいています。なかなか内容については、課題が多くて、具体的にこうだと言えるところまではまだ進んでいません。委員会が10月にもありますが、課題を検討しながら一歩ずつ進めてまいりたいと考えています。

○吉川委員

もう1点ですが、曾我部議員の保育園、小学校を削減すれば少子化が加速す

るのではないかという質問に対して、直接は関係ないというようなお答えだったかと思いますが。その具体的な根拠があれば教えてください。

●教育部長

曾我部議員の質問に対する回答としましては、少子化は社会や経済情勢の変化、結婚や出産、子育てに対する価値観の変化など、様々な要因が重なるもので、学校の統廃合が直接少子化につながることはないとは回答させていただきました。

○吉川委員

私も、いろいろな場で意見を言わせていただいておりますが、少子化が加速するという問題、これは保育園については保護者の送迎ということが原則ですかね、小学校については徒歩通学が原則ですので、今後再編される地域については、実測 2.5 キロは歩いてもらうという計画ですよ。そうすると、単純に考えて 2.5 キロの近辺、またはそれより遠くに住んでいる子ども、保護者にとっては、どんな気持ちでみえるかということと、これから住みたいと思う時にそういう所を選択してもらえるかということ、少しお聞きしたいと思ったのですが。

●庶務課長

通学距離につきましては、以前から何度もご質問いただいております。そのたびに、我々は現在小学校に通学している方の通学距離が最大で 2.5 キロなので、それを基準としますということで、お答えをさせていただいております。再編・統合によって通学距離、歩く距離が長くなることにつきましては、例えば統廃合された学校に一度集まらせていただいて、そこからスクールバスに乗ることにすれば、現状より徒歩通学の距離が長くなることはないのかなと考えております。また 2.5 キロにすることにより、その地区に来たくなるのかということにつきましては、主観的な問題なので我々がどうこういえる問題ではないのかなと思いますが、第 6 回の策定委員会で県内のスクールバスを出している自治体の状況について、資料を提示させていただいております。その中で、どれくらいの距離からスクールバスを入れているのかを見ますと、一番短い所で、新城市は山が多い地形ということもあって 2 キロという回答でしたが、それ以外の常滑市や豊明市、豊田市、豊田市も山が多いですが 4 キロ、一番短い所でも 3 キロからという回答をいただいておりますので、最大で 2.5 キロは、県内の状況からすると、それほど極端に長いとは言えないと感じております。

○吉川委員

私の記憶では、お隣の弥富市では 4 つの小学校が統合すると決まりましたね。

確か半径 1.5 キロというふうに聞いております。間違っていなければそうだと思います。それについての報告はなかったですが、それでよかったですでしょうか。

●庶務課長

先ほどの説明は、現在実際にスクールバスを入れている県内の状況について報告をさせていただいています。弥富市は、これから 1.5 キロという基準の中でスクールバスを考えていかれるのかなと思っています。そこは、それぞれの自治体の状況によって違うのかなと感じています。

◎教育長

ほかにございますか。

◎教育長

ないようですので、6. 議事に入ります。議案第 19 号「令和 7 年度人事異動方針（案）について」を学校教育課から説明をお願いします。

●学校教育課長

議案書の 2 ページをご覧ください。 (議案第 19 号 朗読)

3 ページをご覧ください。稲沢市教育委員会としての人事の基本方針を定める必要があるために、令和 7 年度人事異動方針（案）を提案いたします。内容につきましては、「1 方針」、「2 実施要領」にあるとおりでございます。

この内容につきましては、4 ページにあります愛知県教育委員会の令和 7 年度教職員定期人事異動方針に基づいております。愛知県教育委員会の令和 7 年度教職員定期人事異動方針は、令和 6 年度のものとは変更はありませんでした。稲沢市の令和 7 年度人事異動方針（案）につきましても、令和 6 年度のものから変更はしておりません。

なお、3 ページ最下段の米印のところにあります、令和 7 年度の県費負担市町村立学校事務職員及び栄養教諭・学校栄養職員の人事異動につきましては、愛知県教育委員会の方針に準じて行ってまいります。

以上、よろしく願いいたします。

◎教育長

説明が終わりました。ご質問、ご意見等はございませんか。

○大島委員

この人事異動方針を見ますと、稲沢市の方針にも愛知県の方針にも共通して、適材適所を旨として公正かつ云々と書いてあります。実際に適材を稲沢市でいえば大勢の先生方がみえる中で、それぞれの適材を見つけるためには、それぞれの先生の実力なり、経歴なり、これまでの実績とかいろいろなことを評価する必要があります。そうしないと適材かどうかなんて分からなくて、そ

の方はどこが適所かも分からない。実際に、適材を見つけるために、具体的にどのようなことをされているのか、ということが一つ。それから、その方を適所に配置するためには、誰かがその適材を適所に配置することを決めるわけですが、実際にその決める方はこの中におられる職員のどなたかではないかと思いますが、人事のことですので、答えにくいこともあるかも知れませんが、できれば具体的に教えてください。

●学校教育課統括主幹

各学校で校長先生が、定期的、また必要に応じて本人と面談を行います。本人の希望や研修履歴、これまでの実績等を踏まえて、面談を進めます。その面談内容を教育委員会に報告していただきます。各学校からの報告内容を確認するとともに、校長面談を行い、市内学校の様子を総合的にとらえ、複数で最終的に人事を決めています。

○大島委員

具体的に、複数の職員で決められると思います。できるだけオープンに、なかなか人事のことはオープンにできないことが多いと思いますが、先般の名古屋市教育委員会のような問題も出てきていますので、できるだけオープンにできることはオープンにしてやっていただければと思います。それからもう一つ、その後の校長先生、管理職に対する厳正かつ公平な審査とありますが、それは具体的にどのような、校長先生を評価されるのはどなたがされるのでしょうか。

●学校教育課長

今のご質問につきましては、校長にしても教頭にしても、それぞれ愛知県で任用審査試験があり、その試験に合格した者が校長、教頭になります。その部分のことを言っています。

○澤田委員

愛知県教育委員会のほうで示されている異動方針で、4番の特別支援教育の一層の充実というところですが、こちらは稲沢市の異動方針には見受けられないように思いますが、いかがでしょうか。先ほど不登校が増えている中、魅力化が方針の一つと先ほどあったので、重要な項目ではないかなと思いましたので、伺います。

●学校教育課長

稲沢市の人事異動方針には特別支援教育の充実は入れていませんが、大切なポイントとして、特別支援教育コーディネーターを中心に、学校全体で共通理解を図りながら特別支援の充実を図っています。学校の中で校長が、コーディネーターや特別支援学級の担任を決めておりますので、市全体の人事異動方針

の中には入れていないということでご理解いただければと思います。

◎教育長

少し補足をさせていただきますと、これは愛知県の人事異動方針なのですが、特別支援学校は県立、一部私立の学校もありますが、人事の部分は県が担当してやっている、そういうことがあります。そういうところで、県の方針では特別支援教育のという文言が入っている。そういうこともありますので、補足させていただきます。

○澤田委員

特別支援教育については理解させていただきました。その後にある各学校の魅力化の推進、これはいかがでしょうか。

●学校教育課長

今、教育長がおっしゃられたことと同じように、愛知県で言いますと、例えば中高一貫校などいろいろな特色を出してきている取組みがあります。そういったところが学校の魅力化の推進という文言に含まれていると捉えております。

◎教育長

ほかにございますか。

○吉川委員

教職員の人事異動ということで、同一校6年以上の勤務者とありますが、昨今精神的な疾患で療養休暇、又は休職になってみえる方がいるかと思いますが、具体的な数字ここでは結構ですが、そういった方は特例とかそういう人事は考えてみえますか。

●学校教育課統括主幹

在籍年数のみにこだわることなく、校長先生を通じて本人の状況を確認して、本人の希望も踏まえて、本人にとって、よりよい復職になるよう考えています。

○吉川委員

ありがとうございます。もう1点ですが、お聞きしていると10月の校長会で、先日成立しました学校施設整備基本計画について、庶務課から報告されたと聞いていますが、それで良かったですか。

●庶務課長

学校施設整備基本計画の概要について、私から説明させていただいております。

○吉川委員

これからの人事異動方針ということで、稲沢市は非常に大きな節目を迎えてくることになるなど。平成17年だったと思いますが、市町村合併で、それまで

旧尾西市を含んだ 42 校で人事異動がされていきました。幅が広ければ広いほど、適材適所ということも可能になるかなということをおは思っていました。ちょうど、人事異動を合併の時に私は市教委におりましたので、大変な思いをした記憶があります。市単独でやるという利点もありますが、今後基本計画が進められて、学校数がますます減ると、将来的には、これも地域の住民の理解と納得が得られたら話ですが、得られないと困るかも知れませんが、21 校ですか、に減るといふ形になってきますよね。そういう学校数が減ることに対しての、何か影響、問題点は考えてみえるか教えてください。

●学校教育課長

学校の数が減るといふことで、特に 1 人職、校長や教頭といった職に就いている者、ほかにも 1 人職はたくさんありますが、そういった職に就いている者については、長期的な視点で考えながらやっていかなければならないといふことは認識しております。

○吉川委員

まだこの先、長いスパンですので、これからいろいろと検討していかれたらいいかなと思いました。

○大島委員

稲沢市の方針の（2）ですが、教職員構成については、地域及び学校間の格差を少なくし、その均衡を図るとありますが、地域格差といふのは大体街の中と田舎といふか、稲沢市内と祖父江町を比べれば、地域格差といふのは何となく分かりますが、学校間の格差といふのは具体的には何を格差として条件に挙げるのか教えてください。

●学校教育課長

学校間の格差といふと、いろいろな意味合いがあると思ひます。大きな学校もあれば小さな学校もありますし、とにかく市の中である一定の学校だけで均衡を図るのではなく、すべての学校、さまざまな点でバランスをとっていくことをやっていかなければいけないと考へています。

○大島委員

少し考へていたのですが、学校によって不登校の生徒が多い学校や、学力状況調査の結果が高い学校と低い学校があると思ひますが、それによって教職員構成について均衡を図るといふ意味は、それに応じて教職員の能力に応じて職員を配置するといふ意味ですか。

●学校教育課長

ある教員をこの学校に配置したから不登校が増える、減る、あるいは学力が

向上する、低下するというものではないと思います。学校の中で、年齢構成もそうですが、いろいろなバランスを取りながら学校が組織として十分機能するように、そういう視点を全ての学校に持ちながら考えていきたいと思っています。そういった意味で書いております。

◎教育長

ほかにございますか。

◎教育長

ないようですので、それではお諮りします。議案第19号を承認としてよろしいでしょうか。

(委員さんから異議なしの声あり)

◎教育長

異議なしと認め、議案第19号は承認されました。

本日の議案は、全て承認されました。ありがとうございました。

◎教育長

続きまして、7. 報告事項に移ります。「稲沢市教育委員会後援名義使用承認について」を庶務課から説明をお願いします。

●庶務課長

定例会事項の2ページをお願いします。3ページにかけまして「稲沢市教育委員会後援名義使用承認一覧表」を掲載しております。ここに記載のとおり、5件の後援名義使用承認申請につきまして、事務取扱要領に基づき、承認させていただきましたのでご報告いたします。

以上です。

◎教育長

このことについて、何かご質問などはございますか。

◎教育長

ないようですので、8. その他に進みます。その他について何かありますか。

●美術館長

美術館からは第61回稲沢市民展の入賞者数等について、ご報告いたします。本日お配りしました、お手元の目録をお願いします。

今年度は151点出品がありました。各賞の受賞者につきましては表紙をめぐっていただき、第61回稲沢市民展受賞者一覧をご覧ください。会期は、表紙に記載のとおり10月1日火曜日から14日月曜日・祝日まで、14日は作品搬出のため、展示は午後4時までです。なお、午後3時から市民展表彰式を行います。

第1部の展示は終了しましたが、第2部書・工芸美術は現在ご観覧いただけ

ますので、ご都合がございましたら、ぜひご観覧ください。

美術館からは以上です。

◎教育長

何かご質問等、お聞きになりたいことがありましたらどうぞお願いします。

○吉川委員

その他でいいですか。前回、9月の定例教育委員会の時に、基本計画が決まりました。それからどのように進めて行くかというようなことの進捗状況をお聞かせくださいという話をさせていただいたと思いますが、その点をまずお聞きしたいのですが、どうでしょうか。

●庶務課主幹

前回の定例会以降の学校施設整備基本計画に係る主な取組みといたしましては、市公式ホームページや市の公式SNS、LINE、フェイスブック、X（旧ツイッター）で計画の策定を周知いたしました。また、市役所の行政情報コーナーをはじめ、支所、市民センターの窓口でも紙媒体の資料を閲覧できるように配付させていただいています。そのほか、前回の定例会でも申し上げましたように、市広報において特集号の掲載を予定しておりまして、現在はその原稿作成に取り組んでいるところでございます。

○吉川委員

それでは私のほうからいろいろと教えていただきたいことがありますから、お聞きします。前回、12月の稲沢市の広報で基本計画のダイジェスト版をつくるということを言われていましたが、全体で40ページ以上に及ぶ基本計画をわずか4ページにまとめて掲載するのは大変だと思っておりますが、その内容をおおまかに、どんな内容かということをお教えください。

●庶務課主幹

先ほど申し上げましたとおり、特集号と呼んでおりますが、市広報12月号の特集号については、原稿の作成中でありまして、詳細にこう決まっていますということは現時点で申し上げられませんが、そこはお断りしておきたいと思っております。その上で、現在掲載を予定しております内容は、計画策定の背景やこれからどのような学校を整備していくのか、また学校再編についての取り組み内容、それから市民を対象にした全体説明会を今後予定しておりますが、その開催案内等を予定しております。

○吉川委員

先ほどPTAの代表の方が市長に質問する時に、一つもこの基本計画問題、再編問題が出てこなかった。PTA会長ですら知らないのか、知らされていないな

いのか、ということをしごく感じました。それと、私この4ページのダイジェスト版というのは、とても大切なものだと思いますので、私自身の要望を言いますね。我々教育委員がこれまで議論してきた内容は、ほとんど祖父江、平和、明治、千代田地区の統廃合計画とその通学距離についてのことです。ですから、定例会の審議の最中に、新聞でも図式化して掲載されましたね。ここは、こうなりますよと。あれは、私は審議中はやってほしくなかった。計画が成立したら、成立したところで、もっと具体的に新聞に掲載してほしかったなということをおもっています。ところが、残念ながら8月16日に取材が入った形跡もないし、その後賛成3、反対1、欠席1と、そのような状況で計画案が決まりましたというようなこと、計画の内容はこうです。それを新聞で大々的に報道してもらえば、もう少し皆さん理解していただいたのではないかなと思います。今回、このダイジェスト版を出されますので、やはりほとんど、今言った内容、統廃合がどのように進められるのか、通学距離はどうか、スクールバスはどうか、そういうところを中心にダイジェスト版をぜひ作っていただきたいということをおもいます。これが1点目です。

2点目は、先ほど事務局からありましたが、資料を市民に見てもらおうということで支所や市民センターに置かれたということです。ただ、本当に見てもらえる状況で置いてあるのかどうかということも考えられますが。図書館や全小中学校、そういう所に置くことは考えてみえませんか。

●庶務課主幹

各小中学校には、計画を校長会で配付させていただいていますので、各学校には渡っている状況です。図書館については、現時点で配付はしていませんが、配付については今後検討してまいりたいと思います。

○吉川委員

私が何を言いたいかということ、皆さんに見ていただきたい、皆さんに知っていただきたい、そのためにどういう啓発をしていくかということを中心に考えていただきたい。もっと言えば、市立保育園にも置いていただきたいし、保育園でしたら保護者にも目が届く所に置いていただきたいというようなことを特に考えております。やはり、地域住民に広く知らせる。知らせた上で、どんな反応があるのか、説明会の時にどんな対応をされるのかということをおもっています。

それから、3点目ですが、市のホームページを私見させていただきましたが、先日ラインでトップページに挙げてください。そうすると皆さん、トップページからそれぞれの基本計画、資料編に入っていけるということで、トップペー

ジに挙げていただいたことは、良かったかなと思います。ただ、トップページもどんどん新しいのが出てきて、すぐ後ろに回されてしまいますので、一番大事なのは教育委員会のホームページ、これを私見せていただきましたが、教育委員会のホームページを開くと11の検索項目が出てきました。その主な内容は教育委員会の仕組み、稲沢市の義務教育と学校のあるべき姿、稲沢市高校生議会等、11の検索項目がありました。ところが、その最初のページに学校施設整備基本計画が出ていないんですよね。これはどういうことでしょうか、教えてください。

●庶務課主幹

稲沢市学校施設整備基本計画がホームページのどこに格納されているかというお話かと思いますが、行政計画を広く納める所がありまして、そこに格納させていただいている状況です。教育委員会のページから探そうとすると、確かに今委員がおっしゃられたような分かりづらさがあるかも知れませんが、サイト内検索で検索するか、または市の計画という所から見ていただければ逆にそちらのほうが見やすい部分もあります。どちらが見易いかというのは一長一短あり一概には言えないところもありますが、もしそちらのほうが見易いということであればまた検討させていただきたいと思いますが、今は「公共施設に関する計画」という所に入れさせていただいているということでご理解いただければと思います。

○吉川委員

要は、見える化をしていってほしい。教育委員会のページを開けばここへ行けるのだなというリンクの方法、今ですと自分たちが、基本計画という言葉も知らない方もみえますから、稲沢市の学校統廃合計画というのをポンと押せばそれにたどり着けるのではないかなと思いますが、やはり見える化をしていくということが非常に大事ではないかなと思います。高校生議会は載っていて、こういう大切な基本計画は載っていないというのもおかしな話だと思いましたし、それから前回大島委員と私のほうから付帯意見を載せてほしいと言いましたが、付帯意見は載せる決まりにはなっていませんという話でしたね。以前、荻須部長が教育委員会の議事録でそれは代用できるのではないかと言われました。私もなるほどなと思いました。であるならば、基本計画、資料編、その間に教育委員会で話し合った内容、3月、6月、7月、8月のこの基本計画についての部分だけ抜粋して、教育委員会でこんな話し合いがされたということを明らかにして示していただきたい。私もプリントアウトしてその部分だけ持っていますが、そういうところも教育委員会でこんな話し合いがされていたんだ

ということを住民の皆さんに知らせていただきたいということを思いますが、それはいかがでしょうか。

●庶務課主幹

会議録自体は、教育委員会の議事録の所に掲載しておりますので、改めてそこだけ抜き出して掲載ということは考えておりません。

○吉川委員

40ページの基本計画の4ページのダイジェスト版を出すと言われました。教育委員会でどんな話し合いがされて、こういうふうになされたかということは市民にとって最も大切なことだと私は思っています。そのダイジェスト版、わずかここからここまで切り取って貼り付けるだけで、議事のところだけ、そういうこともぜひやっていただきたい。

それから、前回課長さんから話があったのかな、まず1点、市全体で説明会を行うということを書いてみましたが、市全体で誰を対象にやられるのかということとその市全体でやる意味、目的は何か、それを教えてください。

●庶務課主幹

全体説明会の対象者は広く市民一般ということで、特に地区にこだわらず市民であればどなたでもご参加いただける説明会を、最初にキックオフ説明会の形で開催させていただきたいと考えています。市全体を対象に開催させていただく趣旨といたしましては、この計画は先ほど委員がおっしゃられたような、統廃合に限った計画ということではございません。今後の学校施設整備の在り方について、その背景も踏まえて策定されているものです。学校の建替えは統廃合に関わらずすべての学校が遅かれ早かれ迎えるものです。このため、地区にかかわらず広く市民の方を対象に開催させていただくものです。

○吉川委員

私は、市全体で何をされるのかなということを思いました。基本計画の42ページ、学校施設建替え等の流れというのがありますね。そして1番と2番があります。1番は老朽化した学校施設の建替え、2番は、再編・統合による学校新築整備とあります。この1番、全体を対象とするということは、この1番も含むということですね。1番については、現在大里東小学校は進んでいますよね。老朽化したから建替えますよと。それは至極当然で、標準規模以上の学校であれば、どこの学校でも建替えてくださいと、我々も異議なしと言いますよ。それをわざわざ、市全体で知らせる必要があるのかということをお聞かせください。

●庶務課主幹

説明会は異議があるからやるということではなく、出来上がった計画の内容を知っていただくために開催するものです。ですので、計画の中身として先ほど委員がおっしゃられたように、一つ目としては老朽化した学校をそのまま建て替える場合の流れや、どのような学校を整備するかという内容がありますし、二つ目として再編・統合する場合はこういう形になって行きますという内容があります。この二つのどちらもが大事な計画の中身ですので、どちらか一方だけを抜き出してご紹介するということはありませんので、そこはご理解いただければと思います。

●庶務課長

補足しますと、再編・統合にかかわらず、先日のPTAの教育懇談会もそうなのですが、今稲沢市の学校が大分老朽化してしまっていて、空調を始めグリーンサンド化、あるいはここを修繕してほしいという多くの要望をいただいています。その中で優先順位を付けて庶務課としてはやっているわけですが、皆さん再編・統合にかかわらず、稲沢市の学校施設はいつ新しくなるのか、建て替えるとしたらどういう学校になるのかということは、非常に関心の高いことだと庶務課としては感じており、当然再編・統合にかかわらず、全体の市民の方を対象に説明をさせていただくべきものであると考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○吉川委員

会場はどこで、どれくらいの方を対象にやる予定ですか。

●庶務課主幹

会場につきましては、一定の人数が入れる会場となりますと、すでに予約が入っているということがありますので、今適切な場所を探しているところですが、基本的に想定しているのは、例えば勤労福祉会館の多目的ホールくらいの規模で開催できればと思っています。

○吉川委員

全体会でやると言ってそれを通知していただく、市民に対して、どんな方が集まるかは大体想像ができますが。もう一つ、これも課長さんの話だいたと思いますが、第1期の千代田、平和、祖父江の小学校区の一つだけを最初にやるという話だいたいたと思いますが、それでよろしかったですか。

●庶務課長

まず、全体会をやらせていただきます。その後、第1期の対象地区3地区をそれぞれ同じ力の入れ具合で行けるかということ、なかなか体制的に難しいと思

いますので、いろいろな施設整備や再編・統合に対する地域の意向なども確認させていただきながら、まずは一つの地域に注力して行ければと考えています。

○吉川委員

我々は、全ての対象地区の小学校で説明会をやっていただくと聞いておりますが、ほかの委員さんたちよろしかったでしょうか。これは労力があるに決まっているんです。マンパワー、マンパワーと言われますが、愛西市は62回、座談会も含めてやられたと言っています。地域住民に知らせることはものすごく大切なことです。ぜひ、全部の対象地区の小学校でやっていただきたいと思えます。

次に、資料編のほうで質問させていただきます。資料編の最後に、156ページとその次のページに、我々が視察させていただいたにじの丘学園の資料が載っていました。そこに書かれていたのが、通学時間は最高で40分から50分と書いてありましたが、これは事実ですか。

●庶務課主幹

これは、にじの丘学園に視察に行った時に先方から説明があった内容ですので、事実だと認識しています。

○吉川委員

確認されたかという意味での質問ですが、私はこういうアンケート調査、保護者向けのアンケート調査を持っています。その中には、1時間以内がかなりの数、1時間以上という方も見えるということが載っています。聞かれたことを確認せずにそのまま載せたということについては大変疑問に思います。もう一つ面白いものがありまして、通学時間どれだけですかという質問に対し、バスが早い時間しかないから、学校に着いても学校の教室がまだ開いていないから、通学時間がどこまでかわからないから書けませんというアンケートもありました。ただこの、我々皆さんが行かれたと思えますが、その時に対応していただいた方は、多分瀬戸市の教育委員会の方でしたね。あの時に、なぜ校長や教頭が出てこなかったのかなとそれは今でも不思議に思っています。私は、直接校長さんや教頭さんに質問したかったなど、そんなことを思っていました。それから通学時間についての質問があって、長くなったという児童生徒は65.5パーセントに上がっているというか、65.5パーセントは今までの通学時間より長くなったということがアンケート調査から分かります。同じように統廃合をしたら、これと同じようなデータが出てくるだろうと私は予測しています。それから、最後のページに、すごいことが書いてありましたね。当初児童生徒850人でスタートしたが、通学区域への転入増加により、約250人増えている。いい

学校をつくれれば人が住む。まちづくりに直結した取組みである。この言葉で間違いなかったですか。

●庶務課主幹

先ほど申しあげましたとおり、これは委員も含めて瀬戸に視察に行った際の我々の質問に対する先方の回答ですので、もちろんこのとおりのお話がございました。それについて今、委員がお聞きになられている意図が分らないのですが、これはあくまでも参考資料として、視察に行った際にこういう質問を我々がして、こういう回答があった、それを載せているだけです。そこはご理解いただければと思います。

○吉川委員

資料というのは正確でなければいけないと私は思っていますので、ただ聞いたから載せたとかそういうことではなく、私は250人増えたということに驚いています。まさに学校が新しくなれば、子育て世代が住むようになるのは、これは祖父江地区でも平和地区でも同じことが言えるのではないかなと思います。ただし、学校に通うのに近いとか、そういう所には学校が新しいらしいよという情報で来るのではないか。私自身、調査しました。250人も増えて、学校の教室は足りるのということが率直に考えられると思うのですが。今は特別支援教室をなくしてそこに入れるとか、計画では2つグラウンドをもってみえるんですね。一つは仮校舎建設に充てようかという計画も進んでいるそうです。この250人増える以前はどうだったかということも調べました。これは、区画整理で最初宅地が出来たんです。その宅地に来るような方がなかなか見えなかった。便利がいい所ですよ。高速のインターまで5分、それから基幹バスが走っているという便利な所ですが、入って来なかった。ところが、にじの丘学園ができて、新しいきれいな学校ができた、それから入ってきて250人増えたということを知っています。となれば、同じことが、統廃合対象地区でも起こり得るのではないかということです。学校の近くに宅地が出来れば、児童の数も増えるのではないか、そんなことを思ったものですから、調査して調べてみました。

では、最後の質問をさせていただきます。基本計画の42ページ、学校施設建替え等の流れ、再編統合による学校新築整備のところと別表3のスケジュール目標についてお聞きしたいと思います。まず別表3ですが、第1期の統廃合計画は、私計算してみましたが、来年度2025年度から2039年度までという考え方でよろしいでしょうか。

●庶務課主幹

別表3を見ていただきますと、表の上のところに第1期、第2期と書いてい

ます。第1期というのは2024年度、今年度から2033年度までということで黄色く着色させていただいています。この期間に着手という形の表になっておりますが、期間といたしましては第2期の最初の5年間、2038年までは食い込む形で想定しています。

○吉川委員

ということは、第2期に比べて第1期は15年というスパンでやっていくという考え方でよろしかったですか。

●庶務課主幹

そのとおりでございます。

○吉川委員

それでは、42ページの先ほどのところに戻っていきますと、2番の再編・統合による学校新築整備ということで、一番上に地域協議会設置と書いてありますよね。地域協議会設置までの間が住民の理解と納得を得る期間だと、15年のスパンですから、地域協議会ができてからは7年くらいのスパンでやってしまう。ということは、説明会、いわゆる市教委から出向いていただいて説明会なり座談会なり、要望によって応えていただく、そういう期間というのは納得していただければすぐに取り掛かれるのですが、そう行かないところについては、時間を掛けてという考え方でよろしいでしょうか。

●庶務課主幹

委員のおっしゃるとおりです。

○吉川委員

私も、他地区の情報はあまり耳に入って来ないです。千代田地区、明治地区、それから平和地区。すんなり理解していただければ早くやれるだろうし。私の祖父江地区については、かなり難しい。私の耳に入ってくる方たちは、1校か2校、それに対してどんな反応するかということ、それを理解させるということはかなりエネルギーが要るし、ひょっとして知れば知るほど八開のように反対運動が起きるかもわかりません。そういうようなことも踏まえてこれからの計画を進めて行っていただきたいと思います。ダイジェスト版は我々の目には触れることないですね。もう出してしまいうんですから。私が最初に言ったことを十分考慮していただいて、ダイジェスト版ができることを願っています。強く要望しておきます。

(庶務課長から、スクールバスの質問に対する回答について、実施自治体のうち、小牧市を常滑市、豊明市に訂正する旨発言)

○澤田委員

吉川委員がおっしゃられた啓発活動が大切ではないかということで、私もそう思いましてラインを拝見したのですが、興味が引かれるような書き方ではなかったもので、何人くらいが開封したかがわかるかと思いますが、何人くらいが開封したか知りたいですし、ポスターなどで、稲沢市の学校が変わりますというような皆さんが興味を持つような、そんな形で啓発活動をして行っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

●庶務課主幹

我々も、市民にできるだけこの計画の内容を知っていただきたいという想いは共通しておりますので、どういうやり方がいいのか、ポスターがいいのか、デザイン的な問題なのか、それは今後事務局でも検討してまいります。今後、地域での説明や検討が始まってく際には、ホームページの今計画が載っているようなページに、それぞれの地区ごとのページも設けて、かわら版的なものを、これは地域にも配りますが、ホームページにも上げさせていただいて、広く市民にここまで進捗していますという情報を出してまいりたいと考えておりますので、委員のご意見も参考に進めてまいりたいと思います。

◎教育長

それでは、続きまして、次回開催予定日時について、教育部長お願いします。

(教育部長から説明)

◎教育長

次回の開催予定でございました。

◎教育長

これをもちまして、第10回教育委員会定例会を終わります。お疲れ様でございました。

次回開催予定日

令和6年11月12日（火） 午後1時30分 議員総会室

－ 閉 会 －

令和6年11月12日

教 育 長

職務代理者

委 員

委 員

委 員

委 員

書 記